

平成29年度 第2回

景況調査報告書

目次

1. 調査概要	1
2. 調査結果	2
(1) 全産業の景況	2
(2) 各産業の景況	4
1) 製造業の景況	4
2) 建設業の景況	6
3) 小売業の景況	8
4) 卸売業の景況	10
5) サービス業の景況	12

広島安芸商工会

府中町商工会

広島東商工会

1. 調査概要

(1) 調査目的

広島安芸地域の事業所の景気動向を把握し、事業者の持続的な発展や地域経済の活性化を図るための施策検討の資料として活用する。

(2) 調査方法

1) 調査対象

3 商工会地域（広島安芸商工会、府中町商工会、広島東商工会）の事業所 144 社

2) 調査方法

商工会の経営指導員による訪問配布・訪問回収または郵送回収

3) 調査対象期間

平成 29 年 10 月 16 日～11 月 10 日 ※回答の基準は平成 29 年 7 月～9 月を対象とする

4) 有効回収数

75 社（回収率：52.1%）

(3) 回収結果






1) 産業別構成

	製造業	建設業	小売業	卸売業	サービス業	合計
回収数	8	18	17	2	30	75
構成比(%)	10.7	24.0	22.7	2.7	40.0	

(小数点第 2 位以下四捨五入)

(4) 報告書の見方

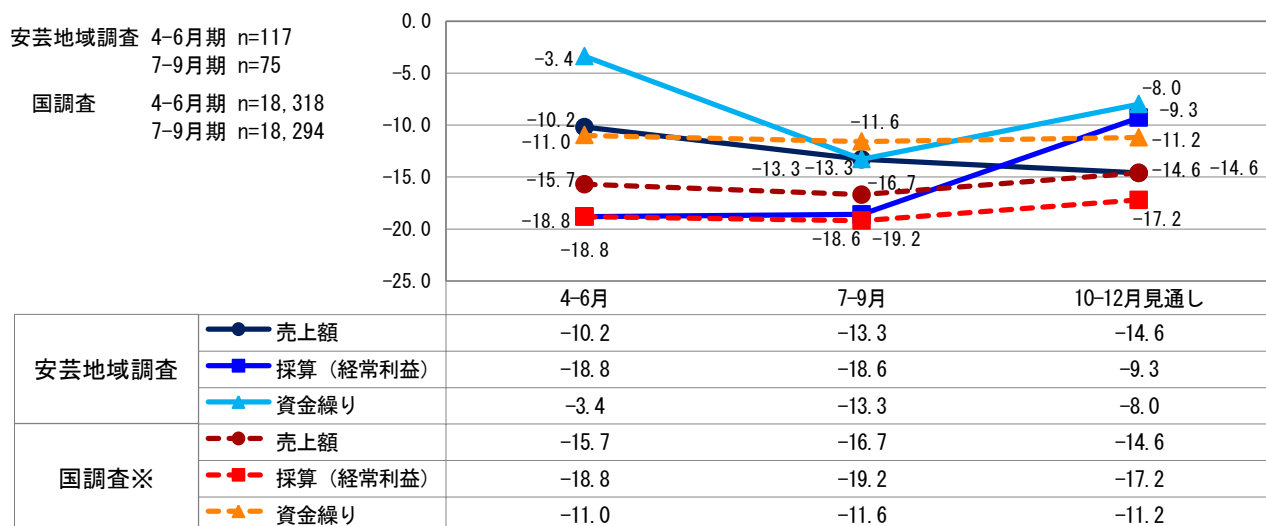
- 1) 本文及び図中に示した調査結果の数値は百分比 (%) で示してある。これらの数値は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、全項目の回答比率の合計が 100.0% とならない場合がある。
- 2) 複数の回答を求めた質問では、回答比率の合計が 100.0% を超えることがある。
- 3) 報告書中の図表では、コンピューター入力の都合上、回答選択肢の表現を短縮している場合がある。
- 4) 文字数が多い選択肢については、意味を損なわない程度に選択肢を省略しているものがある。
- 5) 図表中の「n」は number of cases の略で、回答者総数または分類別の回答者数を示す。各比率は n を 100% として算出している。
- 6) 報告書の中の「DI 値」とあるのは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転、上昇）企業割合から、減少（悪化、低下）企業割合を差し引いた値を示すものである。

天気図の見方					
DI 値	100.0～30.1	30.0～10.1	10.0～-10.0	-10.1～-30.0	-30.1～-100.0
表示					

2. 調査結果

(1) 全産業の景況

【図 全産業の景況感（国調査比較）】



※国調査：中小企業庁 第148回中小企業景況調査(2017年4-6月期)
第149回中小企業景況調査(2017年7-9月期)

①景況感（前年同期比）

安芸地域全産業の景況感は、今期売上額 DI 値が-13.3、前期（-10.2）比で3.1ポイントマイナス幅が拡大している。採算（経常利益）DI 値が-18.6、前期（18.8）比で0.2ポイントマイナス幅が縮小している。資金繰り DI 値が-13.3、前期（-3.4）比で9.9ポイントマイナス幅が拡大している。

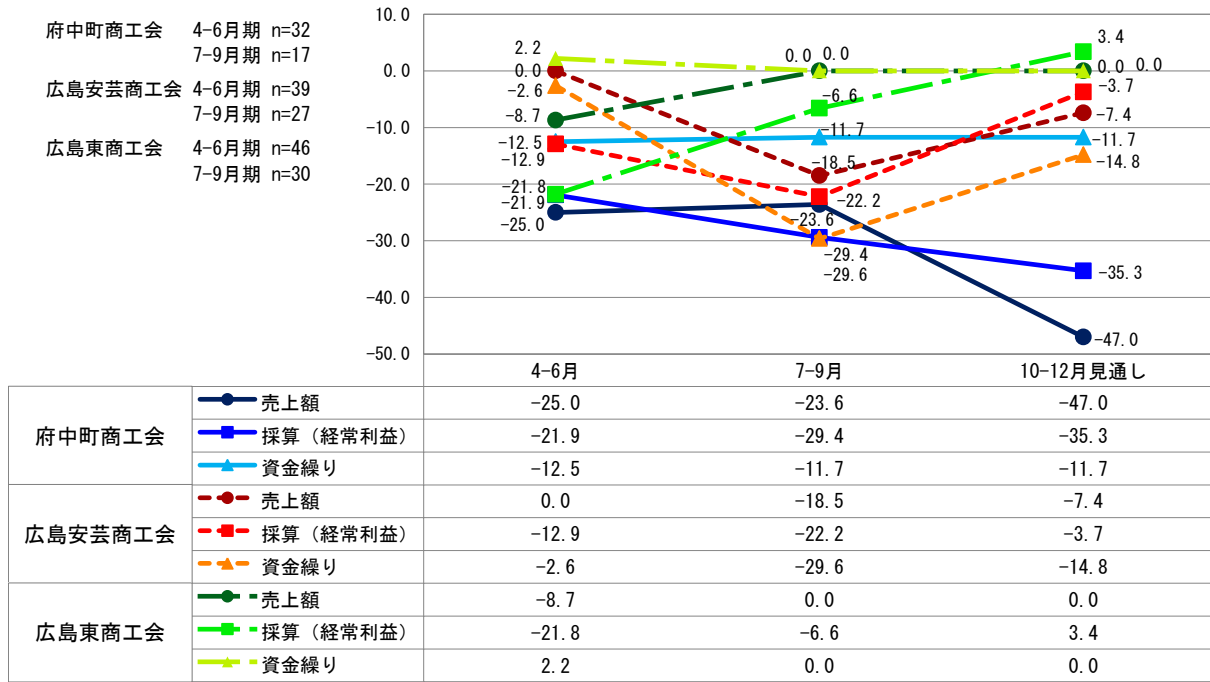
前年同期比の売上額について、半数以上の事業所が「不変」または「減少」と回答している。「増加」と回答している事業所は20社で、全体の26.7%となっているが、採算（経常利益）については「好転」との回答が14社となっており、実際に利益が確保できているのは20%未満となっている状況である。

国調査と比較すると、売上額 DI 値は国調査（-16.7）を3.4ポイント、採算（経常利益）DI 値は国調査（-19.2）を0.6ポイント上回っている。一方、資金繰り DI 値は国調査（-11.6）を1.7ポイント下回っている。

②来期の見通し（前年同期比）

今期と比較すると、採算（経常利益）DI 値は9.3ポイント、資金繰り DI 値は5.3ポイントの改善と見込んでいるが、売上額 DI 値は1.3ポイント悪化する見通しとなっている。

【図 全産業の景況感（3商工会比較）】



①景況感（前年同期比）

府中町商工会の景況感は、今期売上額 DI 値が-23.6、採算（経常利益）DI 値が-29.4、資金繰り DI 値が-11.7となっている。

広島安芸商工会の景況感は、今期売上額 DI 値が-18.5、採算（経常利益）DI 値が-22.2、資金繰り DI 値が-29.6となっている。

広島東商工会の景況感は、今期売上額 DI 値が 0.0、採算（経常利益）DI 値が-6.6、資金繰り DI 値が 0.0となっている。

3商工会を比較すると、売上額 DI 値では、広島東商工会が、府中町商工会、広島安芸商工会を上回っているものの 0.0となっている。

採算（経常利益）DI 値では、全ての商工会で悪化している。

資金繰り DI 値では、広島東商工会が、府中町商工会、広島安芸商工会を上回っているものの 0.0となっている。

②来期の見通し（前年同期比）

府中町商工会では今期の景況感と比較すると、売上額 DI 値は 23.4 ポイント、採算（経常利益）DI 値は 5.9 ポイント悪化する見通しとなっている。

広島安芸商工会では今期の景況感と比較すると、売上額 DI 値は 11.1 ポイント、採算（経常利益）DI 値は 18.5 ポイント、資金繰り DI 値は 14.8 ポイントの改善と見込んでいる。

広島東商工会では今期の景況感と比較すると、採算（経常利益）DI 値は 10.0 ポイントの改善と見込んでいる。












3商工会の来期の見通しを比較すると、売上額 DI 値では、府中町商工会が広島安芸商工会、広島東商工会を大きく下回り-47.0となっている。

採算（経常利益）DI 値では、広島東商工会が府中町商工会、広島安芸商工会を上回り 3.4 となっている。

資金繰り DI 値では、広島東商工会が府中町商工会、広島安芸商工会を上回っているものの 0.0となっている。

(2) 各産業の景況

1) 製造業の景況

	今期の景況	来期の見通し	
売上額			 DI 値 +30.1～
採算			 DI 値 +10.1～+30.0
資金繰り			 DI 値 +10.0～-10.0
			 DI 値 -10.1～-30.0
			 DI 値 -30.1～

①景況感（前年同期比）

製造業の景況感は、今期売上（加工）額 DI 値が-25.0、前期（14.3）比で 39.3 ポイントマイナス、資金繰り DI 値が-12.5、前期（-7.1）比で 5.4 ポイントマイナスとなっている。一方、採算（経常利益）DI 値が 0.0、前期（-28.5）比で 28.5 ポイントマイナス値が改善している。

国調査と比較すると、採算（経常利益）DI 値は国調査（-14.8）を 14.8 ポイント上回っている。一方、売上（加工）額 DI 値は国調査（-10.0）を 15.0 ポイント、資金繰り DI 値は国調査（-9.7）を 2.8 ポイント下回っている。

前年同期比の売上（加工）額について「不変」と回答した事業所はなく、「増加」との回答が 3 社、「減少」との回答が 5 社となっており、事業所間で売上額の格差がみられた。

②来期の見通し（前年同期比）

今期と比較すると、売上（加工）額 DI 値、採算（経常利益）DI 値ともに 37.5 ポイントの改善と見込んでいる。

③新規設備投資

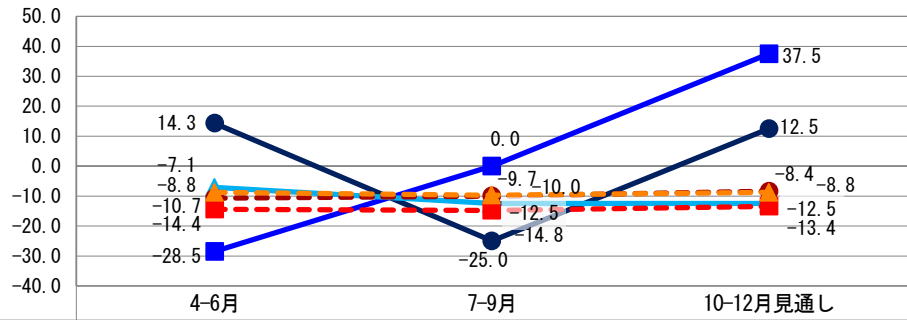
今期は 2 社（25.0%）が実施しており、内訳は「車両・運搬具」（2 社）、「OA 機器」（1 社）となっている。来期設備投資について、2 社（25.0%）が計画しており、内訳は「生産設備」、「車両・運搬具」、「付帯設備」（いずれも 1 社）を予定している。

④経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、「熟練技術者の確保難」、「従業員の確保難」、「原材料価格の上昇」、「需要の停滞」（いずれも 1 社）が 1 番の問題点として挙げられている。問題点の 1 位～3 位をあわせて集計すると、製造業の約 5 割が「熟練技術者の確保難」と回答しており、自由意見でも「生産数が増加しても人材の確保、育成が間に合っていないことが不安である」と、従業員確保についての意見がみられた。また『ものづくり産業を支える企業の労働生産性向上に向けた人材確保・育成に関する調査』（平成 29 年 6 月：独立行政法人 労働政策研究・研修機構）においては、「最近 5 年間のものづくり人材の定着状況」について「定着率が悪くなった」（17.3%）との回答が「定着率がよくなった」（11.2%）との回答を上回っており、製造業では人材の定着についても課題となっている状況が伺える。

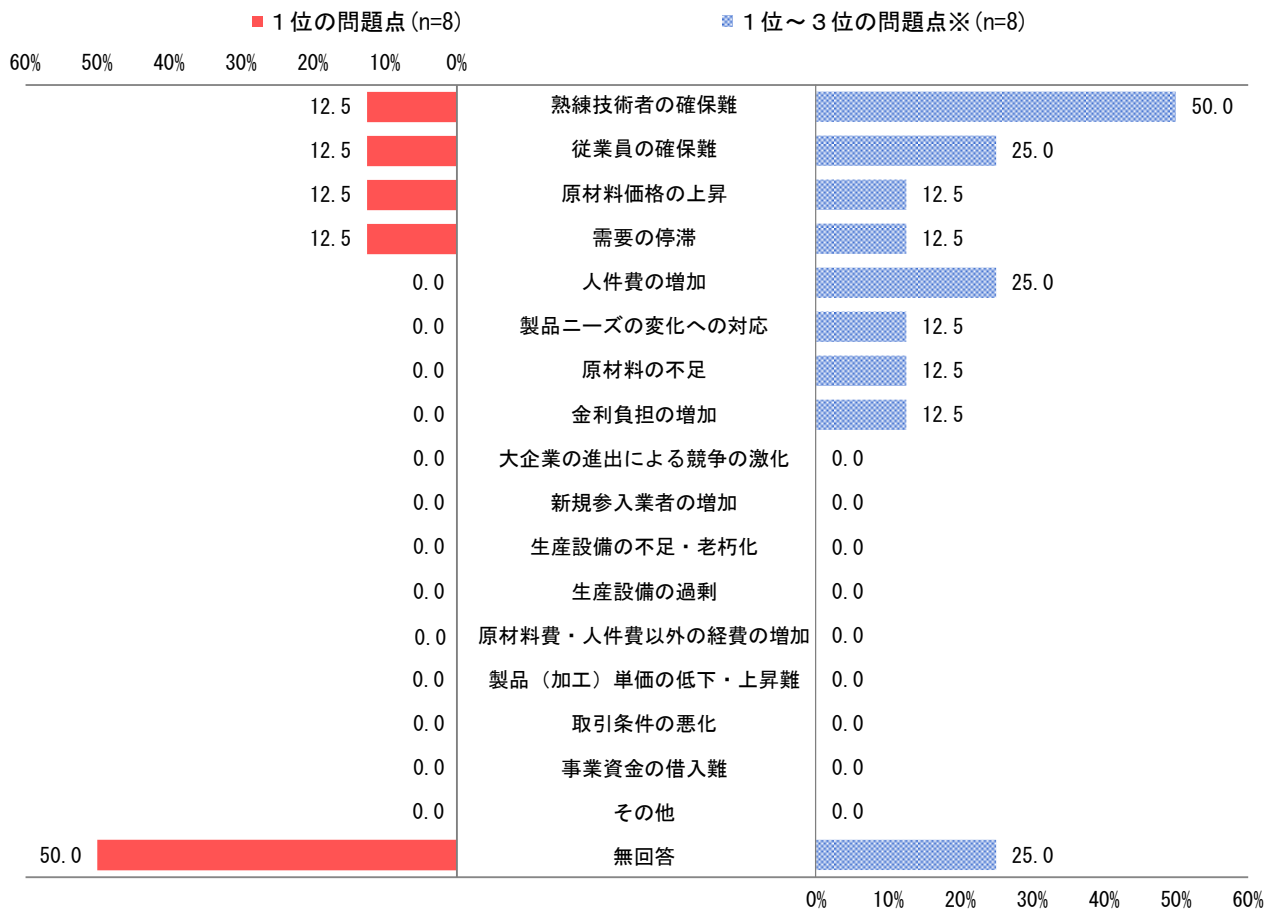
【図 製造業の景況感（国調査比較）】

安芸地域調査 4-6月期 n=14
7-9月期 n=8
国調査 4-6月期 n=4,500
7-9月期 n=4,500














調査	項目	4-6月	7-9月	10-12月見通し
安芸地域調査	売上（加工）額	14.3	-25.0	12.5
	採算（経常利益）	-28.5	0.0	37.5
	資金繰り	-7.1	-12.5	-12.5
国調査	売上（加工）額	-10.7	-10.0	-8.4
	採算（経常利益）	-14.4	-14.8	-13.4
	資金繰り	-8.8	-9.7	-8.8

【図 製造業の経営上の問題点】



※ 1位～3位の回答をあわせて集計

2) 建設業の景況

	今期の景況	来期の見通し	
完成工事額			 DI 値 +30.1～
採算			 DI 値 +10.1～+30.0
資金繰り			 DI 値 +10.0～-10.0
			 DI 値 -10.1～-30.0
			 DI 値 -30.1～

①景況感（前年同期比）

建設業の景況感は、今期完成工事（請負工事）額 DI 値が-16.7、前期（-6.0）比で 10.7 ポイントマイナス幅が拡大、採算（経常利益）DI 値が-22.2、前期（-12.1）比で 10.1 ポイントマイナス幅が拡大、資金繰り DI 値が-27.8、前期（0.0）比で-27.8 ポイントのマイナスとなっている。

国調査と比較すると、完成工事（請負工事）額 DI 値は国調査（-9.7）を 7.0 ポイント、採算（経常利益）DI 値は国調査（-14.6）を 7.6 ポイント、資金繰り DI 値は国調査（-5.2）を 22.6 ポイント下回っている。

②来期の見通し（前年同期比）

今期と比較すると、完成工事（請負工事）額 DI 値は 22.2 ポイント、採算（経常利益）DI 値、資金繰り DI 値は 16.7 ポイントの改善と見込んでいる。

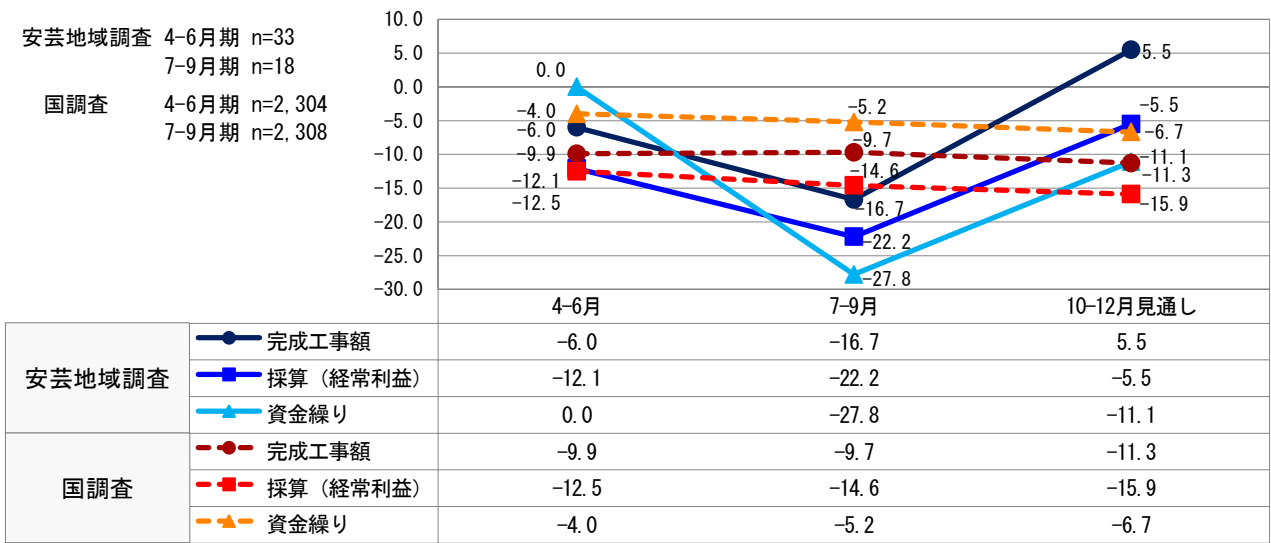
③新規設備投資

今期は 4 社（22.2%）が実施しており、内訳は「建設機械」、「車両・運搬具」（ともに 3 社）、「OA 機器」（1 社）となっている。来期設備投資について、4 社（22.2%）が計画しており、内訳は「建設機械」（3 社）、「建物」（1 社）を予定している。

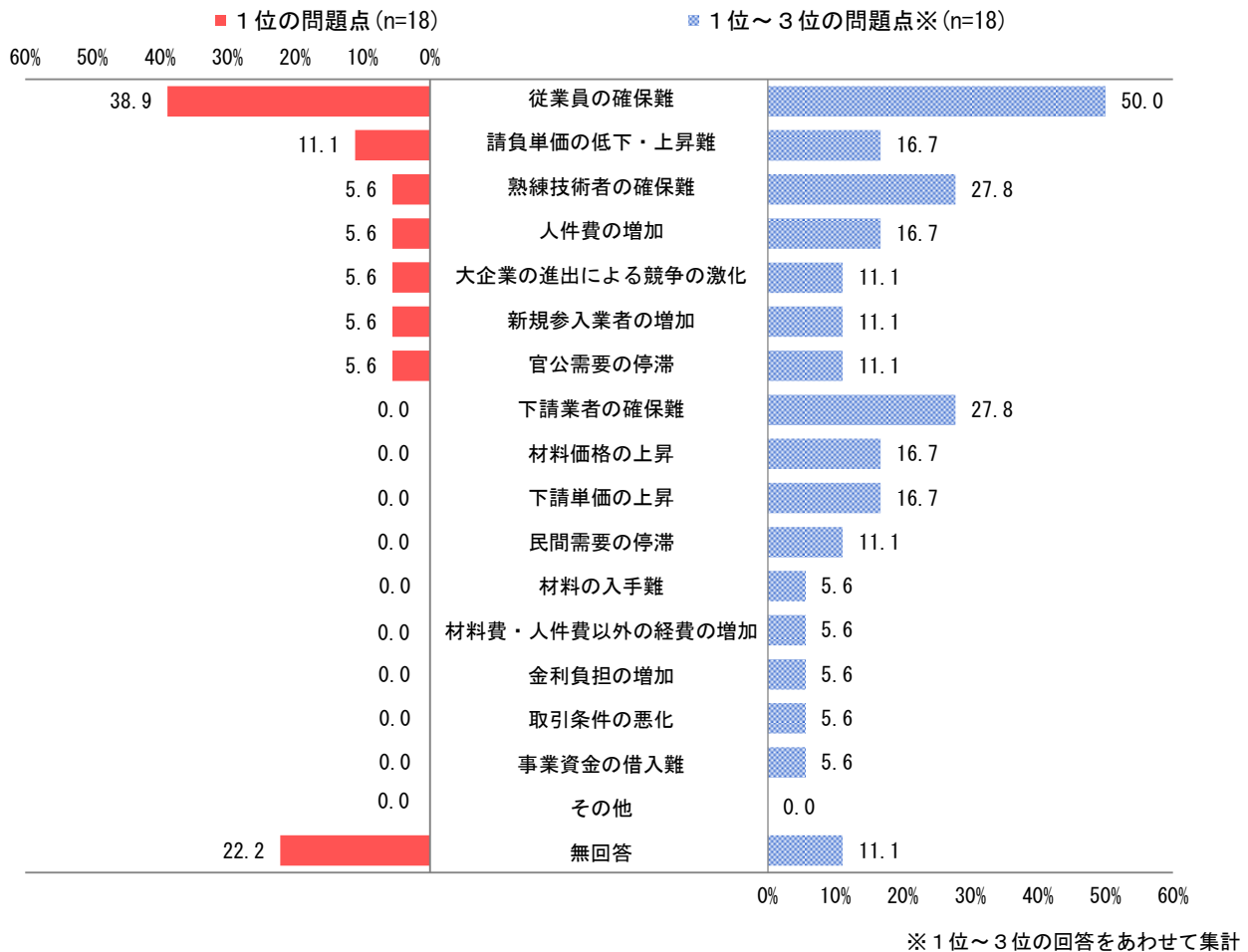
④経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、「従業員の確保難」（7 社）、「請負単価の低下・上昇難」（2 社）などが 1 番の問題点として挙げられている。問題点の 1 位～3 位をあわせて集計すると、建設業の 5 割が「従業員の確保難」と回答している。また自由意見でも、「工事量はあるが、人材不足のため受けきれっていない」との意見があり、受注や引合いについては悪くないと感じているが、第 1 回調査から引き続き慢性的な人手不足が大きな課題となっている。












【図 建設業の景況感（国調査比較）】



【図 建設業の経営上の問題点】



3) 小売業の景況

	今期の景況	来期の見通し	
売上額			 DI 値 +30.1～
採算			 DI 値 +10.1～+30.0
資金繰り			 DI 値 +10.0～-10.0
			 DI 値 -10.1～-30.0
			 DI 値 -30.1～

①景況感（前年同期比）

小売業の景況感は、今期売上額 DI 値が-17.7、前期（-3.7）比で 14.0 ポイントマイナス幅が拡大、採算（経常利益）DI 値が-23.6、前期（-3.7）比で 19.9 ポイントマイナス幅が拡大、資金繰り DI 値が 0.0、前期（14.8）比で 14.8 ポイントマイナスとなっている。第1回調査と比較して、全体的に景況感が悪化している。

国調査と比較すると、売上額 DI 値は国調査（-31.8）を 14.1 ポイント、採算（経常利益）DI 値は国調査（-29.5）を 5.9 ポイント、資金繰り DI 値は国調査（-19.9）を 19.9 ポイント上回っている。

②来期の見通し（前年同期比）

今期と比較すると、売上額 DI 値は 11.7 ポイント、資金繰り DI 値は 5.9 ポイント悪化する見通しとなっている。一方、採算（経常利益）DI 値は 6.0 ポイントの改善と見込んでいる。

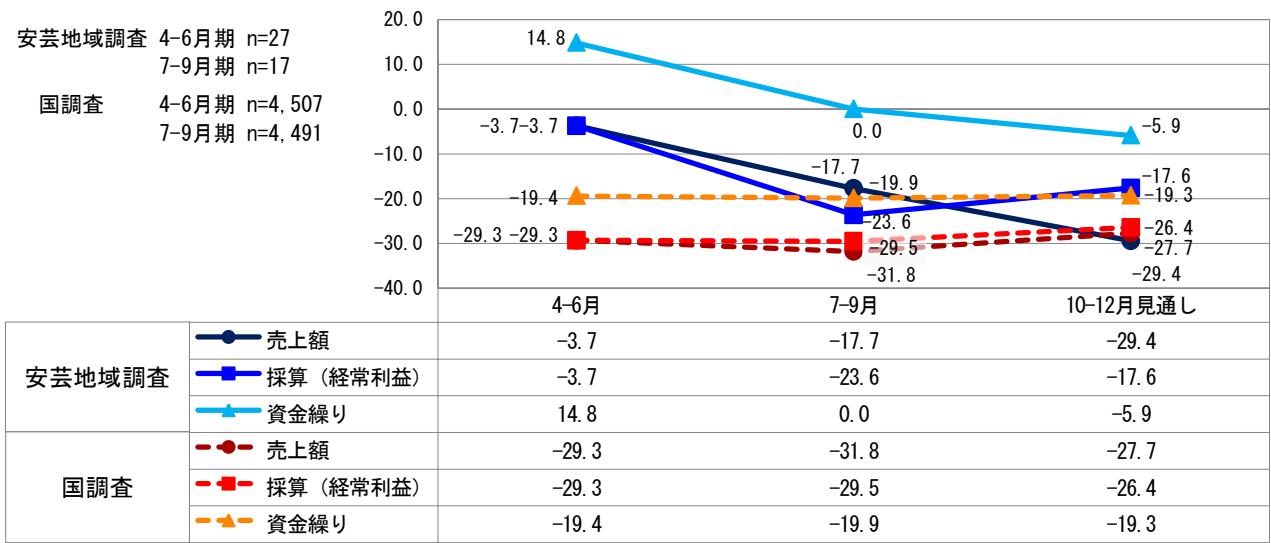
③新規設備投資

今期は2社（11.8%）が実施しており、内訳は「付帯施設」、「OA 機器」（ともに1社）となっている。来期設備投資について、1社（5.9%）が計画しており、内訳は「OA 機器」（1社）を予定している。

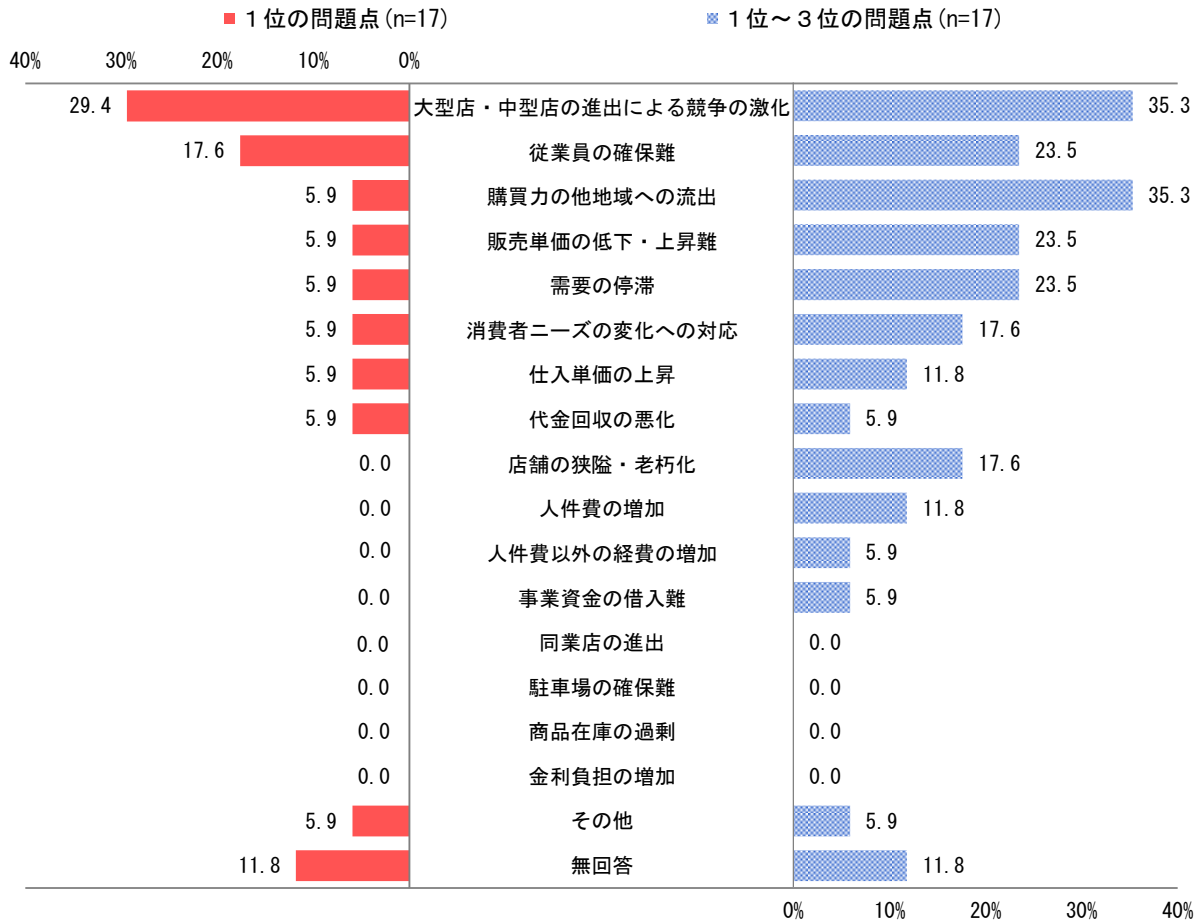
④経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、「大型店・中型店の進出による競争の激化」（5社）、「従業員の確保難」（3社）などが1番の問題点として挙げられている。問題点の1位～3位をあわせて集計すると、「大型店・中型店の進出による競争の激化」と並んで「購買力の他地域への流出」との回答が上位となっている。調査結果では、客単価・客数の低下・減少の傾向がみられ、自由意見でも「固定客の高齢化が来店数の減少や売り上げの減少につながりつつある」など消費者の減少についての意見がみられる。その中で、「若い方の集客対策を行っている」、「店舗で待つだけでなく、訪問サービスや配達等のサービスを検討している」など、客数増加への対策を行っている事業所もみられる。

【図 小売業の景況感（国調査比較）】














【図 小売業の経営上の問題点】



※ 1位～3位の回答をあわせて集計

4) 卸売業の景況

	今期の景況	来期の見通し	
売上額			 DI 値 +30.1～
採算			 DI 値 +10.1～+30.0
資金繰り			 DI 値 +10.0～-10.0
			 DI 値 -10.1～-30.0
			 DI 値 -30.1～

①景況感（前年同期比）

卸売業の景況感は、今期売上額 DI 値、採算（経常利益）DI 値がともに 100.0 で、前期（ともに -33.4）と比べマイナス値からプラス値へ改善している。また、資金繰り DI 値が 50.0、前期（0.0）比で 50.0 ポイントの改善となっている。

国調査と比較すると、売上額 DI 値は国調査（-18.2）を 81.8 ポイント、採算（経常利益）DI 値は国調査（-14.3）を 85.7 ポイント、資金繰り DI 値は国調査（-4.4）を 45.6 ポイント上回っている。

②来期の見通し（前年同期比）

今期と比較すると、売上額 DI 値は 50.0 ポイント悪化する見通しとなっているものの、景況感は引き続き良い見通しとなっている。

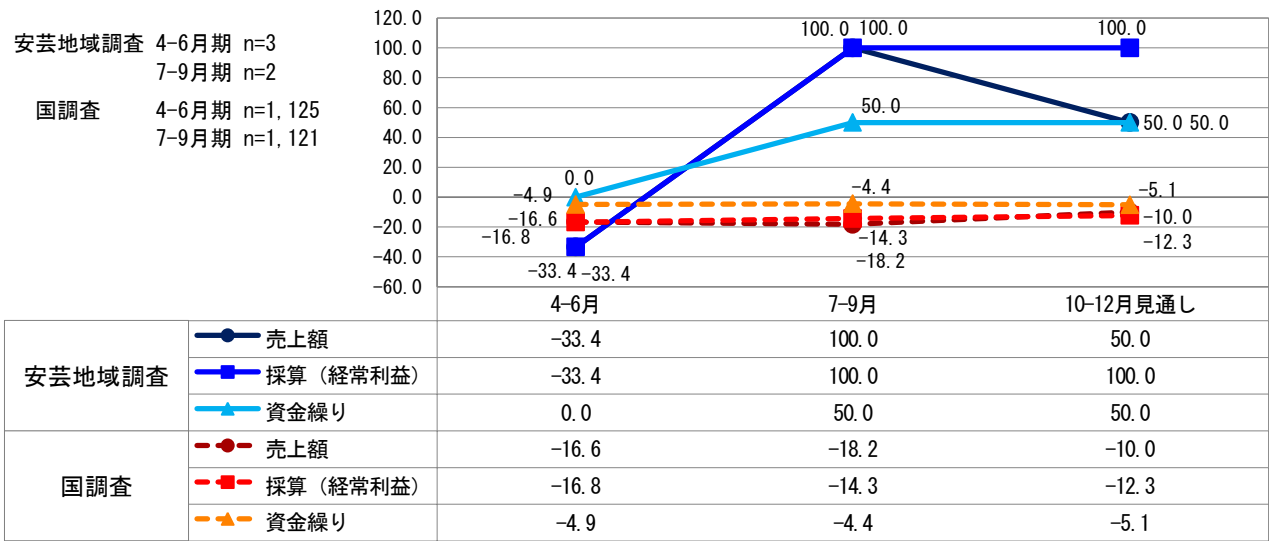
③新規設備投資

今期はいずれの企業も実施していない。来期設備投資について、1社（50.0%）が計画しており、内訳は「店舗」（1社）を予定している。

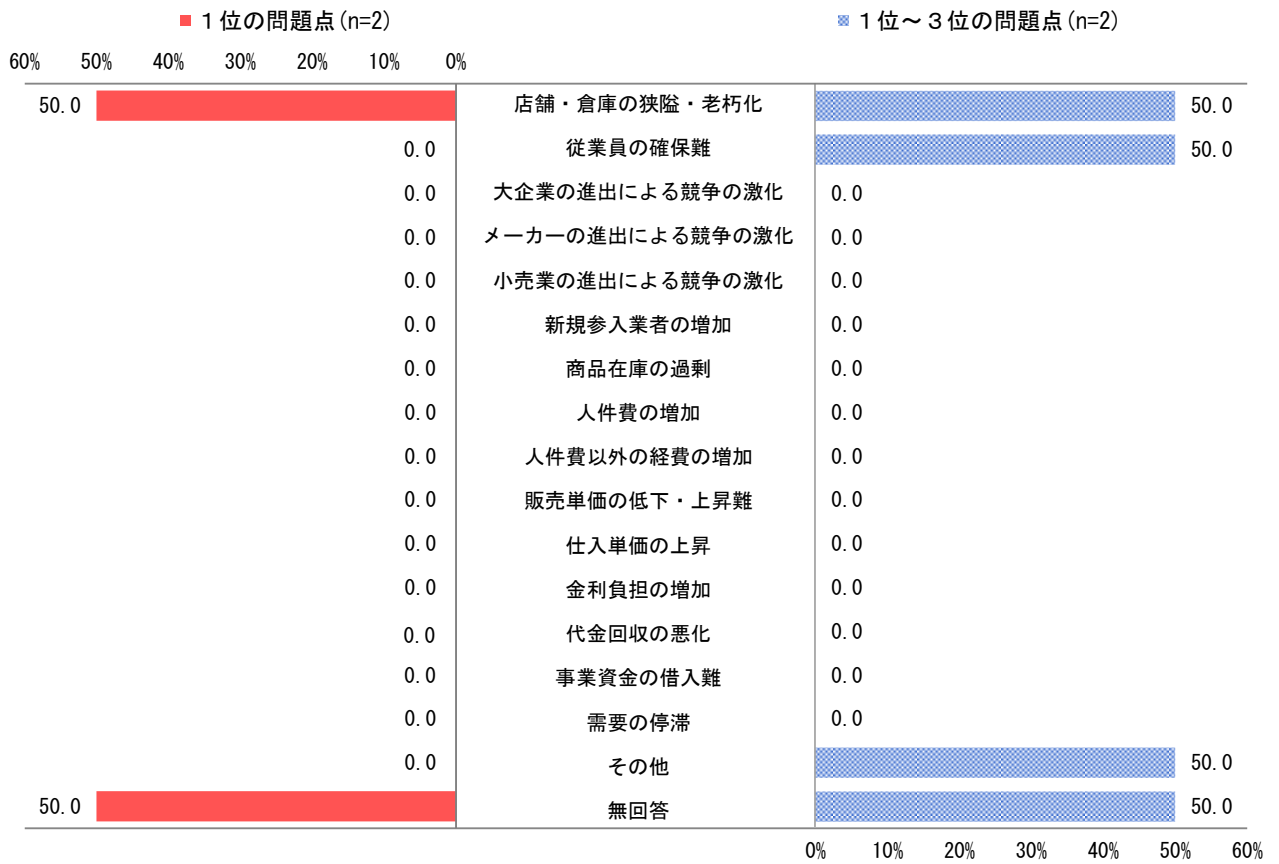
④経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、「店舗・倉庫の狭隘・老朽化」（1社）が1番の問題点として挙げられている。問題点の1位～3位をあわせて集計すると、「店舗・倉庫の狭隘・老朽化」と並んで「従業員の確保難」などが挙げられている。

【図 卸売業の景況感（国調査比較）】














【図 卸売業の経営上の問題点】



※ 1位～3位の回答をあわせて集計

5) サービス業の景況

	今期の景況	来期の見通し	
売上額			 DI 値 +30.1～  DI 値 +10.1～+30.0
採算			 DI 値 +10.0～-10.0
資金繰り			 DI 値 -10.1～-30.0  DI 値 -30.1～

①景況感（前年同期比）

サービス業の景況感は、今期売上（収入）額DI 値が-13.3、前期（-25.0）比で11.7ポイントマイナス幅が縮小、採算（経常利益）DI 値が-26.7、前期（-30.0）比で3.3ポイントマイナス幅が縮小、資金繰りDI 値が-16.6、前期（-17.5）比で0.9ポイントマイナス幅が縮小している。

国調査と比較すると、売上（収入）額DI 値は国調査（-12.4）を0.9ポイント、採算（経常利益）DI 値は国調査（-17.2）を9.5ポイント、資金繰りDI 値は国調査（-10.8）を5.8ポイント下回っている。

②来期の見通し（前年同期比）

今期と比較すると、売上（収入）額DI 値は16.7ポイント悪化する見通しとなっている。一方、資金繰りDI 値は6.6ポイントの改善と見込んでいるものの、引き続きマイナス値の見通しとなっている。

③新規設備投資

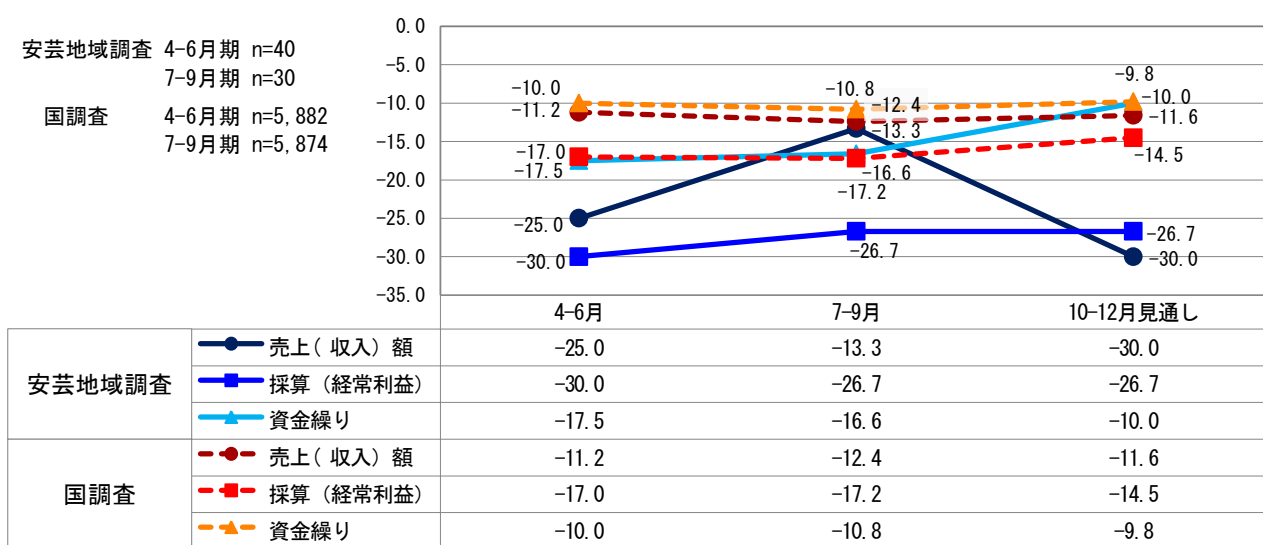
今期は4社（13.3%）が実施しており、内訳は「サービス設備」（2社）、「付帯施設」（1社）などとなっている。来期設備投資について、7社（23.3%）が計画しており、内訳は「サービス設備」（4社）、「建物」、「付帯施設」（ともに2社）、「土地」、「福利厚生施設」（ともに1社）を予定している。

④経営上の問題点

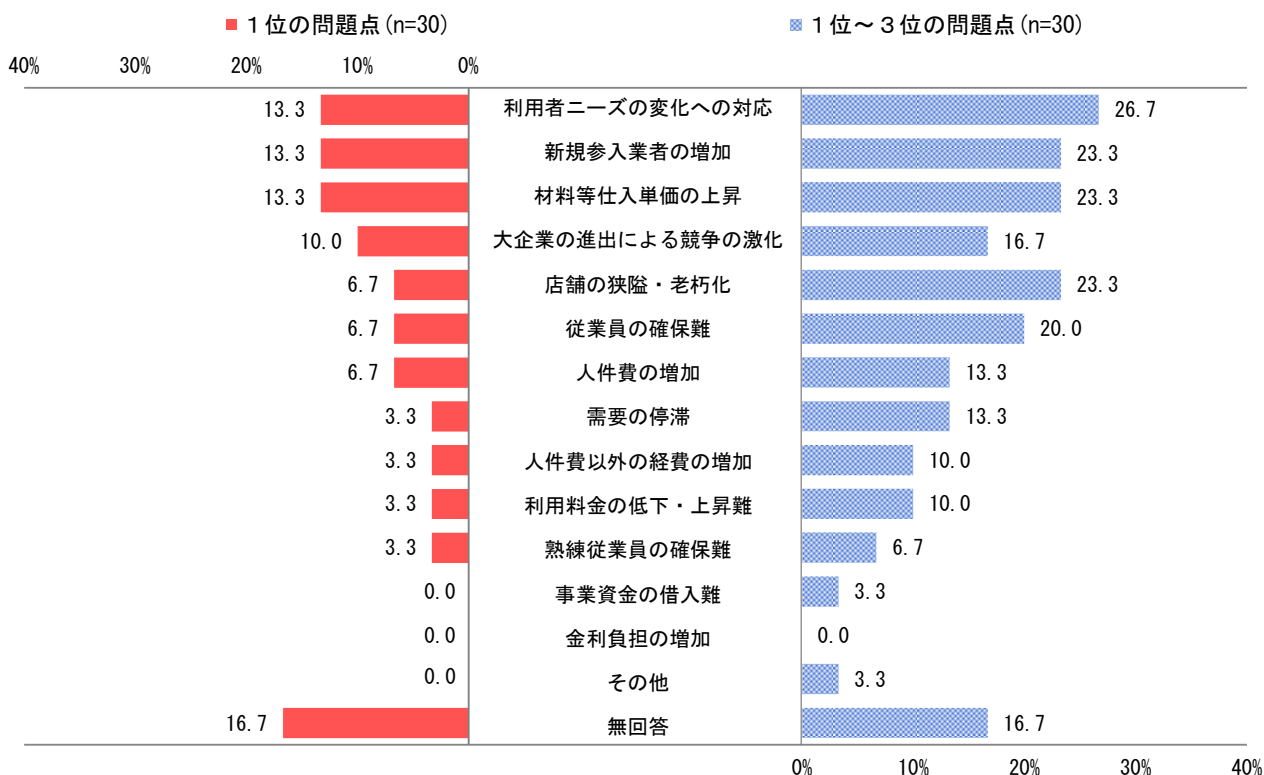
今期直面している経営上の問題点は、「利用者ニーズの変化への対応」、「新規参入業者の増加」、「材料等仕入単価の上昇」（いずれも4社）、「大企業の進出による競争の激化」（3社）などが1番の問題点として挙げられており、外部環境の変化が経営に大きく影響している状況である。

また調査結果では、客単価の低下や利用客数の減少がみられ、自由意見でも「利用客の高齢化による来店数の減少」、「利用客数の減少」などについて言及した意見が多くみられた。

【図 サービス業の景況感（国調査比較）】



【図 サービス業の経営上の問題点（国調査比較）】



※ 1位～3位の回答をあわせて集計